

ポワットロボ



PoWhat and Donkey

作者：さも

概要：飼い主の百合さんに日々「ぶさいく」と言われるけれど、意味を知らないので「ありがとう」と答える筋肉隆々系クマぽわっと。そんなぽわっとにも初めて友達ができる、心温まるほのぼの絵本。



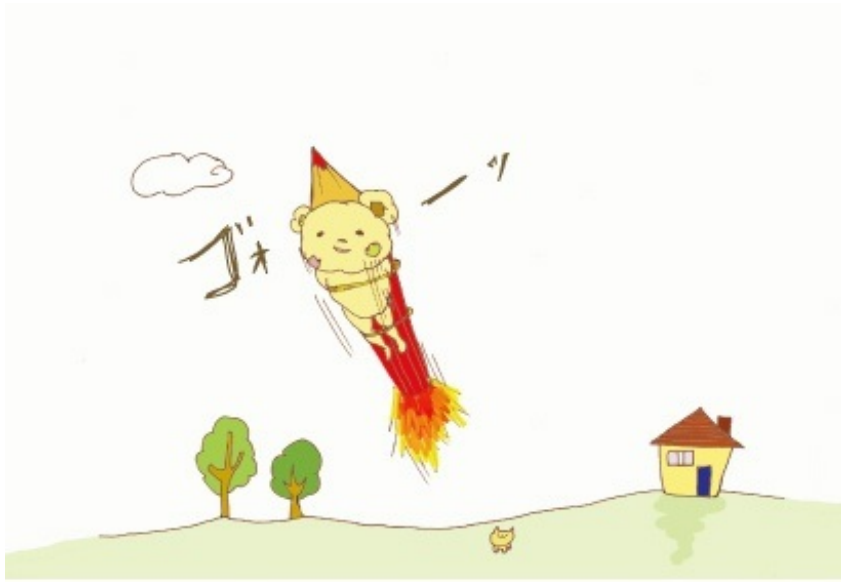
あるところに



っていうかすげー高いところに
ぼわっというくまがいました。



というのも、ぼわつがカルハズミに
ろけつとえんびつがほしいといったばかりに



まあいろいろあって
こんななっているにいたるわけです。



ぼわっとはやねのカワラをかぞえたり、
ひとりでじゃんけんをしたりしました。
とおりがかったカラスにオイーッスといったらロコツにめをそらされました。



ぼわっとのひとりじゃんけんが823回目のあいこにさしかかったころ、
下からだれかによばれました。



ぼわつとがgに身をまかせて下界におりると、
そこにはなんだか似たニオイのするロバくんがいました。

「こんにちは」とロバくんがいました。

「うん」とぼわつとがいました。



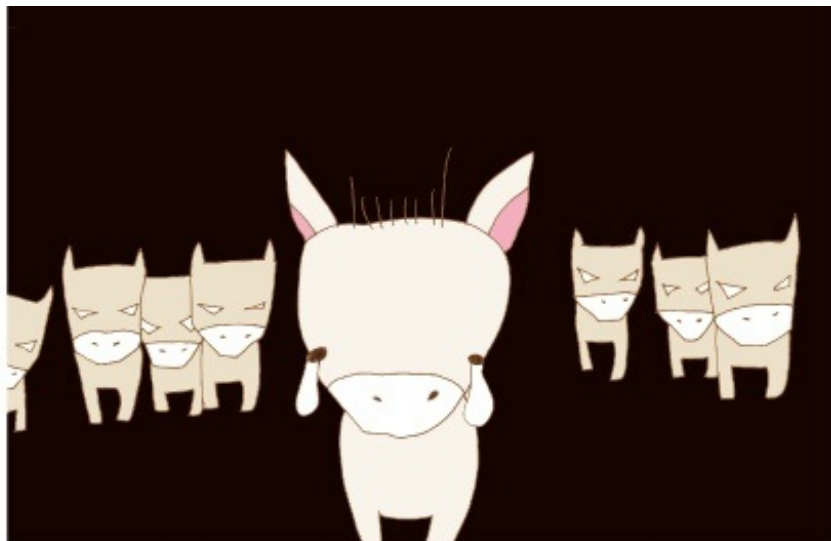
ロバくんはウレイをおびた目ではなしました。
「ぼくはキリンとかシマウマみたいになろうとがんばってたんだ。
でも、それを見てロバたちは笑うんだよ。だからぼくカッとなって…
そしたらムラから追い出されちゃった。ムラハチブだよ。」



ぼわつがオリースではなくホリースにしとけばよかったかと考えあぐねていたら、
ロバくんはきゆうに泣きだしてしまいました。
そこでぼわつは「コレデオフキナサイナ」とおぼえたてのコトバをつかってみました。
イミをしらないので何もさしだしませんでした。



ロバくんはとても努力家で野心家でした。
キリンにあこがれてくびをのぼしつづけたり、
ライオンにあこがれてタイヤをくびにはめてみたり、
フリョウにあこがれていちにちじゅうダリーと試してみたりしました。



ところがロバたちは「ロバはロバらしくしてればいいんだ」といってロバくんをいじめました。

ロバくんはじぶんにいいきかせるようにこういいました。

「向上心のない者は馬鹿だ。」

するとフォリーッスよりフォイーンズのほうがいいのかと考えていたぼわつとがこういいました。

「こうじゃうしんってなあに？」



ロバくんは向上心のない者は馬鹿だけど、
向上心を知らない者はもっと馬鹿だともいました。
もはやダンマリをきめるほかありませんでした。
もちろんせなかにネギをしょっていることにもふれる気はサラサラありませんでした。



いつのまにか暗くなりました。



ロバくんはいつのまにか
じぶんのココロがまんまるになっていることに気づきました。
ぼわっとのとなりにいるとなぜだかココロがすっきりとして
きぶんがはれていくようなのです。



おもえばぼわっとのゆがんだカオはこの世のものではない、まさにキセキのカオであり、
むだにキンクシツな脚は友をたすけに走ったメロスの深い愛を受け継いでいる証拠であり、
いささかヒジョウシキなところはおそらくながい天界生活のためではないか
とおもいました。



ロバくんはおそろおそろたずねました。

「ぼわっとは神の子なの？」

ぼわっとはイミがわからないので何もこたえませんでした。

「ほんものなら簡単に YES と言わないはず」とおもっていたロバくんにはじゅうぶんなこたえでした。



「キリンよりもライオンよりも、ほわっとになりたい！」

とおもったロバくん。

ほわっとのするとおりオチバをふみながら、道の UNGHI にもおくすることなく
ふたりでなかよくかえっていきました。



ホワッ